

自蹊庵便り

令和四年 師走

NO 159

一期一会の言葉の重み

〽和歌山天授軒に誘いざなわれて

今年の口切り茶事も無事終えることができました。京都餘慶庵にて三席、東金拙庵にて三席。これらは口切りとは云えども月々の茶事実習の一環なれば、ともすれば一世一度の会えという意義も乏しく、万事に際すきなくとう持続も難しいことにございます。

唯々やり続け、さらさらと時が過ぎて逝きます。そのような過ぎ逝きの中にも皆さんと共に力を合わせ心重ねの年月は尊く、いつしか美味なる一服を調えるべく、台所方、水屋方、一丸となって働く姿がそこにはありました。

スタッフ一同皆々一つのことに心を尽くしきるといふ茶事というものの本質をよくよく会得してくれている仲間がそこにはおりました。

茶事というものに心篤い眼差を抱いている同志が目の前に育っておりました。

心を一いっつにして…、一いっ丸となって…何いっ一つ疎かにせず、そして美味なる極上の一いっ服

は生まれるのです。一という言葉、老師の道は一を生じ、一は二を生じ、二は三を生じ、三は万物を生ず。天は一を得て清く、地は一を以て寧いじと、その言葉がなぜか身にしみます。

この度、縁あつて和歌山県田辺市海蔵寺にて口切りの茶事を催す運びとなりました。

訳あつて、三十年ほどの長い間、使われぬままになっていた茶室いざなに誘いざなわれてのことにございます。きつと茶室が呼んでくれたのでしよう。一日十五名二席の予定が、瞬しゅんく間に二十名様になっておりました。

不行き届きのなきよう、いささかの粗末なことなきよう…と心配りの限界もよぎりつつも、御住職御夫妻の限りなく温かな心配りに助けられ、また、スタッフの日頃の積み重ねの力が結晶した二日間にございました。

日々の鍛錬というものの大切さを実感した二日間でもありました。

京都は八瀬に学び舎を構えるも、樂をし

てはならじ…と、大徳寺での茶事を各月にいたしておりますのも、搬入、搬出に粗相のなきように、茶道具の運搬等、身につけていけばこそその底力というものを發揮してくれたように思います。

誠に誠に井伊掃部様の茶の湯一会集にあるように「今日の会えにふたたびかへらざる事を思へは…」にございます。

口切りの一服のお招き茶事、濃茶も薄茶も全員挽き立てを楽しんで頂くことができましたこと（その裏には和尚様自ら陰で一生懸命茶臼を回してくださったという働きあつてのことでございますが）、釜の煮え湯の音、釜の味、名水の味、挽き立ての茶葉の味、この三味一体に相応しい、実に素晴らしい茶室でありました。長い間、締め切つて使われずにいた茶室の柱が、土壁が、障子が、天井が、一斉に呼応しながら深い深呼吸をしているような波動が終始流れておりました。

中村昌生先生が京都から資材を運ばせ、匠も京都から来ての仕事であつたと聞いて

おります。工学博士であり、日本建築の中でも特に茶室、数寄屋建築の研究者として御高名なまさに巨匠による作品にございます。

初日は小雨まじりの悩ましい天気で気がつきませんでした。二日目に、秋の日差しの移ろいの彩光も柔らかく、夕べの灯りをつけては、障子を写すほのあかりの美しさに感動ひとしおにございました。

お元気であればお招きしたかった：との思いもよがり、確か亡くなられて四、五年になられるのでは：。(平成三十年十一月五日没・編集子注) 一度、関西国際セミナーハウスで、もみじ祭りの催しの折に先生の御講演を拝聴したことがございます。

先生！この度、茶室は大きな深呼吸をして復活いたしましたよ。誠に連子窓のさんからの木漏れ日の無言の美しさは、屋根の高さ、庇の長さも計算され尽くしたものにございませうが、見事な優しい光に包まれた小間蒼龍窟にございました。広間は天寿軒という扁額がかけられており、誠に天が授けてくださった茶室であると分に過ぎたお役目ながら感無量にございました。

二日目のお客様がお帰りになった後、余情残心さながら、余の釜の湯の甘露の一服

を味わい終え、露地に出てみますと、夕陽に染まった茶室の屋根の朧ぶきの美しさにまた露地の杉苔に、涙落つる思いにございました。

外待合の腰掛の木蓋をはずしてみると活き活きとした正木の美しさが現れ、風雨の染み一つ無い仕事の確かさに心ふるえ、この芸術作品ともいえる茶室に恥じない仕事をしなくては：と襟をただす思いの、この度の和歌山口切り行脚にございました。

海蔵寺御住職様、奥様始め、田辺の皆様から沢山の真心、御協力を賜り、拙い亭主を助け頂きましたこと、心より深く深く感謝申し上げます。

また、遠来のお客様方、広島・東京・浜松・奈良・名古屋・大阪・四国・長野・群馬等々多方面からの御来駕を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

裏方スタッフも多忙極まる中で、遠方より馳せ参じての御協力に深謝いたします。

先ずは紙面にて、皆様に厚く厚く御礼申し上げます。

今年も残すところ、あと僅かとなりました。皆様のお手許に届く頃には、師走の只中にございませう。

今年もコロナで明け暮れた一年でした

が、充分に御留意くださいますよう、新しい年がより心豊かな稔り多き年となりますよう、お祈り申し上げます。

今年も感謝の一会一会で無事過ごさせて頂きましたこと、只に只に感謝の一語にございませう。

茶の湯とはただ湯を沸かし茶を点てて飲むばかりなるものとするべし
なかなか容易ならぬ言葉と身に染み入りつつ今年の筆を止め置きます

多謝

茶事一つ終えて露地に佇めば

天授軒は夕陽せきように映ゆ

令和四年師走 鶴女

各種教室

京都教室

十二月 (師走)

八瀬自蹊庵

十二月一日 (木) オンライン講座ライブ

午後四時半〜午後五時四十五分

十二月二日 (金) 夜咄茶事準備・実習

午前九時半〜午後四時

十二月三日 (土)〜四日 (日)

夜咄の茶事

集合 午後一時

席入 午後五時

終了 午後八時半

※小灯料 二千円の御協力を

お願いします。

十二月五日 (月)

夜咄の献立実習及び反省と課題

十二月六日 (火)

貴素の会

おせち料理の実習

金団、手鞠サーモン

定番三種(ごまめ、数の子、叩き牛蒡)

十二月七日 (水)

午前九時〜午前十一時半

利休会記

午後二時〜午後四時

会記料理再現 昼食 呈茶

夜の部 食事付き 午後六時半〜九時

食事なし 午後七時〜九時

十二月八日 (木) 自由稽古

※一月は正月ということ、一週間全体

に繰り下がります。常の第一週目開催

の京都教室が二週目からのスタートと

なりますので、全体に変則的になって

いるかと思えます。各担当者は御注意

ください。各教室ともラインにて早め

にお知らせください。

一月 (睦月)

一月五日 (木) NHKオンライン講座

ライブ 午後四時〜午後五時四十五分

大徳寺瑞峯院餘慶庵茶事 初釜

一月七日 (土)

午前九時〜正午 大徳寺搬入

午後一時より 八瀬にて準備

一月八日 (日)〜十日 (火)

初釜正午茶事 席入午前十一時半

※実習者は午前九時〜午後四時

大徳寺瑞峯院餘慶庵茶室

一月十一日 (水)

NHK梅田教室主催初釜茶事準備

一月十二日 (木)

NHK梅田教室主催 初釜茶事

問合せ等詳細は、NHK梅田教室へ

東金教室

十二月 (霜月) 夜咄の茶事

十二月十日 (土) 茶事準備

午前九時〜午後四時

十二月十一日 (日)〜十三日 (火)

夜咄の茶事 席入午後五時〜八時半

実習者は午後一時〜午後八時半

○小灯料二千円御協力を

お願いします

一月 (睦月) 初釜

一月十四日 (土)

一月十五日 (日)〜十七日 (火)

初釜茶事 席入午前十一時半

実習者は午前九時〜午後四時

各種講座・教室

目黒・羅漢寺

利休会記を読み解く会

十二月十七日(第三土曜)

一月二十一日(第三土曜)

午前十時から正午 昼食後解散

会費 五千元(昼食・一服)

三千元(会のみ)

担当者 漆原かずみ様

090(4821) 4810

湯河原教室

口悦会・利休会記を読み解く会

十二月十八日(第三日曜)

旬の食材を楽しむ会

一月二十二日(第四日曜)

利休会記を読み解く会

会費 五千元(一日のみ)

八千元(二日間)

担当者 服部宏子様

090(6173) 0243

※一月は一週繰り下がっています。

栃木農園レストラン

利休会記を読み解く会

十二月十五日(第三木曜)

一月十九日(第三木曜)

午前九時半〜午前十一時半

会費 五千元(昼食代別料金)

担当者 青村裕子様

090(9807) 3402

市川教室・長松寺

十二月二十六日(第四月曜)

※年末につき変更しています

一月二十五日(第四水曜)

午前十時〜正午 講義

正午〜午後二時半 再現料理会食

会費：五千元(講座のみ：三千元)

担当者 青野かおり様

090(1436) 1684

千葉教室・秀明茶室

十二月二十六日(第四月曜)

一月二十五日(第四水曜)

午後三時〜午後五時

講座及び菓子と抹茶一服

会費：三千元

担当者 道前一剛様

070(4452) 4781

柏教室(高橋様宅にて)

口悦会・利休会記を読み解く会

十二月二十一日(第三水曜)

一月十八日(第三水曜)

午前九時半〜午前十一時半 講義

午前十一時半〜午後三時

利休会記再現料理会食

会費 五千元(会食含む)

三千元(講義のみ)

担当者 高橋れい子様

090(6175) 1228

鎌倉教室・鎌倉彫会館(第四日曜)

十二月二十五日(第四日曜)

一月二十九日(第五日曜)

※繰り下がりに注意

午後一時〜午後三時

講座のみ

会費：三千元

担当者 角田宗弘様

090(6349) 7695